

科目名:健康(指導法) (必修1単位)		担当教員名:佐藤 伴哉	使用テキスト:出版社名・テキスト名 保育内容・健康(同文書株式会社)、幼稚園教育要領、保育所 保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	
		担当形態:単独		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	施行規則に定める科目 区分又は事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	
授業の到達目標及びテーマ: 領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。				
授業の概要: 健康の概念・定義や、乳幼児期の健康・発育発達と疾病を理解し、指導方法や保育の構想を学ぶ。				
回	項目	内 容		
1	オリエンテーション及び 第1章 健康の概念 1. 健康の定義	領域「健康」の講義内容を理解する。「健康」とは何か、WHOの「健康」の定義を踏まえ「健康」について考える。		
2	2. 健康観の変遷	古代の医学の発展や時代の変化による健康観を知る。現代の健康観を学び、近年の生活上の問題点など、子どもの健康を考えた今日的課題を学ぶ。		
3	3. 健康と疾病の3要因	疾病の発症、原因はどこにあるかを考える。領域「健康」のねらいを理解し、健康な心身の成長を促す基本的な生活習慣を学ぶ。		
4	4. 健康の成立に向けて	子どもの心身の発育発達に欠かせない食事、運動、休養の現在の在り方を知り、ライフスタイルの変化による問題点を学ぶ。		
5	第2章 乳幼児の健康 1. 乳幼児の生理機能	基本的な生活習慣の形成として、食事、睡眠、排泄、衣服の着脱、清潔についての援助方法や指導の在り方を理解する。また、具体例を示す資料や視聴覚教材等を活用し、幼児の具体的な活動の仕方や行動について理解できるようにする。		
6	2. 発育・発達と疾病	小児期の主な疾病・症状・感染症・免疫等の基礎的知識を学び、その対処方法について理解する。		
7	3. 出生前から発症する疾患	先天奇形、先天性代謝異常症の違いを知り、先天異常の要因を学ぶ。		
8	第3章 心身の発育と発達 1. 乳幼児のからだ	乳幼児の心身の発育発達を理解し、積極的に体を動かすことと健康との関連を考え、また、様々な遊びの場を幼児の多様な動きや経験などの視点から捉えながら、幼児期の運動の発達にそった援助・指導方法を学ぶ。		
9	2. 乳幼児の心	乳幼児の健康な心を育むための援助や関わり方を理解し、幼児自身から興味や関心のあるものに積極的に関わっていくための援助・指導方法を学ぶ。		
10	3. 乳幼児の動き	身体の調和的な発達を促すうえで、全身を十分に動かし、活動意欲を満足させることが重要であることを学ぶ。		
11	第4章 乳幼児の健康管理 1. 健康および日常行動の観察	乳幼児の発育発達に相応しい援助や園生活での保育者の在り方を理解し、幼児については幼児なりに安全を心がけた行動をとるための指導法を学ぶ。		
12	2. 摂食指導	健康な心身を育むため、食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを理解し、幼児が進んで食べようとするための言葉かけ等の援助を学ぶ。		

13	3. 疾病予防と予防接種	健康を高めるための運動・栄養・早寝早起き等の基本的な生活習慣の形成を知り、予防接種等を通して幼児自身が健康を考えるための指導法を学ぶ。
14	4. 健康診査と健康診断	乳児健康診査、1歳6カ月児健康診査、3歳児健康診査、幼稚園児の健康診断などを学ぶ。
15	5. 環境の整備	領域「健康」のねらいを踏まえ園内・室内の清潔、遊具の片づけなど、活動を終えた後、園内・室内の環境に幼児の関心が向くような指導法を学ぶ。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料：</p> <p>事例で学ぶ保育内容「健康」萌文書林、保育内容「健康」ミネルヴァ書房、切抜き速報「保育と幼児養育版」、地元紙「東奥日報」幼児関連切抜き</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示）</p>		
<p>学生に対する評価方法：</p> <p>期末試験、毎回のレポートなどによる総合評価</p>		